

# カトリック仙台教区報

2004年3月7日 No.156  
発行  
カトリック仙台司教区  
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12  
Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378  
発行責任 広報委員会  
URL : <http://sendai.catholic.jp/>

またこの時期には断食を義務付けています。いまさら断食などと反論する方がいるかもしれません、宗教にとって断食はとても大切な業なのです。四旬節には大斎といつて断食が信者に義務付けられています。成人の信者厳密には**18歳**から**59歳**までの信者はこれをすることが勤めです。大斎とは一日に一食だけです。普通に食べることで、他の二回

節中特に十字架が強調されます。40日間神様がどのよう人に慈しみ、救いの手を差し伸べたのかを教会は信者に默想させます。十字架の道行きや、聖金曜日に行われる十字架礼拝などがその良い例です。

今年も四旬節の季節になりました。四旬節は典礼暦年の中で一番大切な季節です。それは何よりも神様が人間にすべてを与えつくしたということを表しているからです。四旬

は軽い食事ですませることです。要は、断食を通して主を思い、救いのみ業に与ることです。これは18歳にならなくともできますし、60歳を超えても十分できるものです。決まりというより、その精神



## 五戸教会の聖家族像

五戸教会の聖家族像

断食以上に大切なのは、愛徳の業です。四旬節には特にそれを何かの形で表すことが求められています。四旬節の特別献金などもその良い例です。これもただ献金すれば良いではありません。自分の身を削った献金であることが大事です。全く自分に痛みがない献金はさほどありませんが、それでも全く自分に痛みがない献金はさほどありませんが、それでも

「あり余つているものの中から」

ではなく、自分に必要なもののなかから割いて渡すことに意義があります。四旬節の間、甘いものを食べないとか、アルコールを控えめにするとか、その他の断食の方法がありますが、そこで節約したものを必要としている人々に渡すのです。四旬節の献金がこのように心のこもったものであれば、教会は恵みで充满することでしょう。

よりよき四旬節を迎えるべく、

お互いに祈り合い、助け合い、励まし合っていくように致しましょ

「で、また多くのしかたで先祖に語られましたが、この終わりの時代には、御子によつてわたしたちに語られました」（ヘブライ1・1-2）。

▼イエスの語られたことばは、すべて御父のおことばです。「わたしは自分勝手に語つたのではなく、わたしをおつかわしになつた父が、わたしの言うべきこと、語るべきことをお命じになつたからである」（ヨハネ12・49）。

聞くことなのです。なぜなら、信仰のいのちは、みことばを生きることによつていただく神のいのちだからです。「耳を傾けて聞き、わたしのもとに来るがよい。聞き従つて、魂にいのちを得よ」（イザヤ55・3）。▼聖書において語られてゐるすべてのみことばは、キリストにおいて一つに統合されていると言えましょう。「神は、かつて預言者たちによつて、多くのかたち

塩と光

パウロは、信仰の原点が何であるかを教えます。

「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによつて始まるのです」(ロマ書10・17)。

信仰の生き方とは、日々みことばに聞き従うことにはなりません。

▼教会の教えを、知的に理解するだけでなく、信仰の基本は、神に聞くことなのです。なぜなら、信仰のいのちは、みことばを生きることによつていただく神のいのちだからです。「耳を傾けて聞き、わたしのもとに来るがよい。聞き従つて、魂にいのちを得よ」(イザヤ55・3)。

▼聖書において語られているすべてのみことばは、キリストにおいて一つに統合されていると言えましょう。「神は、かつて預言者たちによつて、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られましたが、この終わりの時代には、御子によつてわたしたちに語られました」(ヘブライ1・1-2)。

▼イエスの語られたことばは、すべて御父のおことばです。「わたしは自分勝手に語つたのではなく、わたしをおつかわしになつた父が、わたしの言うべきこと、語るべきことをお命じになつたからである」(ヨハネ12・49)。

塙と光

パウロは、信仰の原点が何であるかを教えます。

「実際に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによ

# 司教年頭書簡をめぐつて

2004年の年頭にあたり、溝部脩司教は「靈的刷新を目指して」と題して年頭書簡を発表された。信徒の皆さんはそれぞれで読まれ、話しかけられていることでしょうが、次の三人の方々にご意見・ご感想などを伺つてみた。

**書簡全体に対する感想**  
北澤浩美(原町教会) 個人

の信仰の在り方がそれぞれ異なるように、書簡の受けとめ方も教会によつてかなり異なるよう感じられます。この書簡を理解し既に実行している教会もある一方で、この書簡に書かれてゐることがどんなことなのかをまず理解するところから始めなければならぬ教会もあるでしょう。私は教区全体が足並みを揃はうとした



北澤浩美さん



Sr. 太田妙子さん

徒の召命と使命



佐藤正一さん

るべく、神の祝福を願いながら、さらなる努力と工夫が必要かと思ひました。

いました。

司祭の共通祭司職と  
司祭の役務的祭司職

もない。司祭とその月の初めから綿密に打ち合わせを行い、祭壇奉仕者はあらかじめしつかりとリハーサルをして当日のミサに備えることが大事だと思う。

北澤 毎日ミサに与ることができる人もいます。それぞれが自らの使命を自覚して生活していくためにも、典礼への参加を深く感謝しつつ、与ることができると思います。ミサに与ることも、教会が支えられているからだと思います。

北澤 日常生活の中でつい忙しさにからまけて、祈るために時間が十分にとれないというのも現状ですが、信徒が「祭司」と異なった役割を担つているところであり立つてゐると言つておいでになりますが、この点に関してどうですか。

Sr. 太田 信徒一人ひとりが各自の召命を理解し自覚することを再確認させられましたね。

北澤 福音を遠い過去のこととして受けとめるか、今現在私たちの力の源泉となるものとして受けとめるか、その姿勢によって信仰者としての生き方が変わつてくるように思います。私たちはもちろん後者としてより強く受けとめるべきですね。

Sr. 太田 私たちキリスト者は毎日の生活の喜びや苦しみを主の十字架に合わせて捧げて生きてゆく。教会は信徒と司祭から成り立つています。信徒は教会の内部から働きかけ、社会を福音化します。司祭は、秘跡の執行を通して信徒を助け励ます。司祭と信徒の役割があいまつてカトリック教会が成り立つています。だから、この信徒の共通祭司職と司祭の役務的

司祭不在の主日の集会

—どの教会でも主日毎にミサが行われているわけではなく、い

くつかの教会では集会祭儀が行われていますが、これについてどのように思いますか。↑

Sr. 太田 仙台市内の教会に属する信徒は交通機関の便利さや距離の面からも、どうしてもミサに与りたいと望むなら、カ

佐藤 正一(元寺小路教会) 司教様は毎年の年頭書簡を通して神の民の集いである教会は、信徒一人ひとりがどのように自分自身を生きるかを自覚し、その信仰によって培われた心を持つて、眞の信仰共同体に育成されること、さらに刷新されるよう強調されてきました。私たち信徒もこの呼びかけに応え

いた神からの恵みを人々にもたらすこと、自分が救われるためには教会にきていたことがあります。だからこそ、自分だけが救われる

福音を理解したとき、私たちは司祭のささげるミサに、全身全霊をもつて喜びや苦しみを含めて与ることに最高の喜びを感じ

ことができるのだと思う。

主日の集まりの大切さ

佐藤 主日のミサを十分に準備し、実施することが教会生活のいのちであることは言うまで

書簡を読んでいて、過去に学校で行われるミサとみことばの祭儀はどこがちがうのですか?と質問を受けたことを思い出しました。まず、ミサの大切さと、ミサと集会祭儀の区別をしつかりと理解することが必要なこと

Sr. 太田妙子(聖ウルスラ会) 書簡を読んでいて、過去に学校で行われるミサとみことばの祭儀はどこがちがうのですか?と質問を受けたことを思い出しました。まず、ミサの大切さと、ミサと集会祭儀の区別をしつかりと理解することが必要なこと

佐藤正一(元寺小路教会) 司教様は毎年の年頭書簡を通して神の民の集いである教会は、信徒一人ひとりがどのように自分自身を生きるかを自覚し、その信仰によって培われた心を持つて、眞の信仰共同体に育成されること、さらに刷新されるよう強調されてきました。私たち信徒もこの呼びかけに応え

いた神からの恵みを人々にもたらすこと、自分が救われるためには教会にきていたことがあります。だからこそ、自分だけが救われる

福音を理解したとき、私たちは司祭のささげるミサに、全身全霊をもつて喜びや苦しみを含めて与ることに最高の喜びを感じ

ことができるのだと思う。

主日の集まりの大切さ

佐藤 主日のミサを十分に準備し、実施することが教会生活のいのちであることは言うまで

があります。将来の司祭の高齢化と減少からみてその回数はふえると見込まれます。ミサとの違いを明確にして、きちんと教会祭儀に参加できるよう準備をすすめなければならないでしょ。一方で、現在の小教区制度を見直すことも必要なではないでしようか。

### 北澤

教会によって、集会祭儀について受けとめ方が異なることがないように、司教様の指針ができるだけ具体的に詳しく信徒に示されることを願っています。県レベルでの研修会は大

切ですが、県を超えた教区レベルでの研修会にも参加できるよう柔軟に対応できるようにしてほしいものです。

### 佐藤

元寺小路教会が集会祭儀を始めたのは昭和63年9月からで、15年前になります。司教様はいつも司祭不在が250年間も続いたキリストン時代を語られます。私たちはいかなる非常事態がきてもいいように備えておくべきでしよう。

### 教会刷新の原動力として

司教様は司祭召命を促進するため、青年の活動を活発化します。

### 二、信徒の共通祭司職と司祭の役務的祭司職

仙台教区にとっての緊急課題は、信仰共同体を育てる必要性と教会の刷新の二つです。これの解決に至る道は、福音を読み、福音を通して教会の一一致を保つ以外にはあります。県レベルでの研修会は大

たいと言われておりますがこの点はいかがですか。

### Sr. 太田

これから教会は

青年に期待するところ大です。

### 北澤

長い間には、信徒が従順の徳を求められ、司祭の判断にのみ頼らざるを得ないような状況に置かれたことも過去にはありました。ですから、ここで「刷新」という言葉の受けとめ方を誤ると、間違った方向へ進んでしまいかねないという危惧

札に参加するよう努めなければなりません。信徒は信仰体験、人生体験が豊富であり、教会刷新の原動力です。今、司祭減少をぼねに、新しい教会の在り方を構築する時期です。

### 四、司祭不在の主日の集会

仙台教区では、司祭の高齢化と困難な状態も起きています。信徒は司祭が不在でも、主日に集まつて礼拝を捧げみことばを聞く必要があります。教会はこのような場合を想定し、信徒による集会祭儀を勧めてきました。集会祭儀は信徒が自分の祭司職を果たすためにも必要なことです。どの教会においても、主任司祭と信徒がしっかりと話し合い、集会祭儀を行えるよう準備を始めてください。ただし、ミサと集会祭儀は厳然と区別されるべきです。集会祭儀はみことばの祭儀であり、ミサだと思われる態度や言葉は避けられなければなりません。その理解の上で聖書を読み、福音を通して教会の一一致を最大限に生きること、これに尽きます。決して悲観的になつてはなりません。神は必ず私たちの教会を守り発展させてくださいます。

### 三、主日の集まりの大切さ

主日は、神の言葉を聞き、ミサをさげ、神への賛美に生きる日です。主日のミサをいかに準備し、実施するかは教会生活のいのちです。教会は主日の礼拝にこそ全力を注ぐべきです。その際、信徒と司祭はそれぞれの役割を自覚しなければなりません。ミサを司教の祭司職に対する理解が肝要です。この秘密を通して私たちは、罪から解放され、新しい自分に生まれ変わることができます。カトリック教会がミサを大切にしてきた理由がここにあり

をいだくこともあります。ですから、刷新の中から学びうるものもあり特に青年に期待されるところではありますが、「温故知新」、伝統の中から学びうるもの多くあることを肝に銘じて着実に歩むこととも

考えなければならぬと思います。

### 佐藤

司祭は教会共同体の中からしか生まれきません。司祭召命を促進するためには、青年活動を活発化して信仰を深め行くことが大事です。それに何と言つても家族共同体が問題になります。2001年

### 北澤

司教様がおっしゃるよう、まず祈ること、聖書を毎日読むこと、この二つを大切にし、信徒としての基本に立ち返ります。

礼を大事にすること。教会が弱

者の声に耳を傾けるだけにとどまらず、かれらの「叫び」を共

にする原動力となつていくことを願っています。

### Sr. 太田

まず出発点である福音を読み、味わう機会を家庭、教会、学校、社会の中に見つけ

ること。各自の置かれた場所でできることから始められたらい

### おわりに

教区が危機的状況を脱するに

するためには、司教様は福音を読み、福音を通して教会の一一致

を保つ以外ないと示唆されています。

司祭と信徒がそれぞれの役割を最大限に生きること、これに尽きます。決して悲観的になつてはなりません。神は必ず私たちの教会を守り発展させてくださいます。神を信頼し、私たちにできることは何かを考え、共に手を取り合つて歩みましょう。

### 五、教会刷新の原動力として

司祭は、秘跡の執行を通して信徒を助け励まします。司祭と信徒の役割があいまってカトリックの祭司職に対する理解が肝要です。この秘密を通して私たちは、罪から解放され、新しい自分に生まれ変わることができます。カトリック教会がミサを大切にしてきた理由がここにあり



# 朝祷会全国連合第33回年頭集会

超教派のキリスト信者で組織する「朝祷会」全国連合の第33回年頭集会は1月23（金）～24（土）日の両日、郡山市で約百名の参加者を得て開催された。

この大会に参加されたカトリック郡山教会司祭ミシェル・ガリエビ神父から大会の様子が寄せられた。

開会礼拝では賛美歌斉唱の後、らず、諸宗教の信仰のあり方と私が「平和を作り出す祈り」をテーマにメッセージを述べた。その中で、私は「キリスト教の各教派や諸宗教との対立や無駄な論争を乗り越えて、同じ心で今この世界の本当の平和を祈ることは、主が祈られた真の一一致への大きな一步を踏み出すことになります。私たちはイラクや他の紛争地域に派遣されることはないでしょう。しかし、私たちの身近にある教派、諸宗教との対立を超えて祈ることは、眞のエキュメニカルな平和に近づく最高の道ではないでしょうか。キリスト教にとどま



まつて、聖歌やアシジのフランシスコの平和の祈りをささげました。」と、経験を交えて、共に祈ることの大切さについて強調した。

## キリスト教一致祈祷週間と新年合同礼拝・祈祷会

キリスト教一致の新年合同礼拝・祈祷会がいつからこの仙台で始まつたのかについて、私が最初に参加したのは1980年代の初め日本基督教団仙台北教会での新年礼拝でした。教会での新年礼拝でした。プロテスタントの教会が会場の時はカトリックの神父が、カトリックの教会が会場の時はプロテスタントの牧師が奨励（すすめの言葉）をすることになつてゐるので、プロテスタンントの仙台北教会を会場とする集まりでは、教会がキリスト教一致に向けての確かな歩みを進めた公会議であります。2年ほど前、立正佼成会から「一緒に平和を祈ろう」という誘いを受けてから『宗教懇話会』が第一歩を踏み出しました。参加者は8名程度ですが、各寺・神社・教会を回つて、それぞれの習慣に従つて祈りをささげています。昨年9月には、約50名の僧侶・神主・信徒がカトリック郡山教会に集




奖励の題・聖書朗読箇所・奖励者・参加人数のみを記すことにします。

04. 1. 1 /	日本基督教団仙台東一番町教会／ヤコブの家よ、主の光の中を歩もう／イザヤ55・11 / 佐々木博神父 / 134名
04. 1. 18 /	カトリック元寺小路教会／教会の一致を求めて／ヨコリント12・12・13 / 甲原一牧師（日本基督教団宮城野愛泉教会） / 67名
04. 1. 25 /	日本福音ルーテル鶴ヶ谷教会／祈りによる出発／ルカ3・21・22 / 吉田隆牧師（キリスト教改革派仙台教会） / 57名
今 キリストは、シリア・アレッポ市の兄弟姉妹を通して、私たちが平和のためにともに祈りともに働くよう呼びかけているのではないかでしょうか。	

さて、2004年のキリスト教一致の集会のテーマ『わたしの平和を与える（ヨハネ14・27）』は、シリアのアレッポ市のキリスト教教会（正教会・プロテスタント・カトリック）から全世界の教会に向かつて提案されたものです。

（高梨

## 溝部司教 小教区を訪問

■一本杉教会

溝部司教は、信徒とじかに接して交流を深めるために仙台市内の小教区を訪問している。

2月8日（日）は、一本杉教会を訪問。ミサ後椅子を円形に並べて、信徒たちとの対話があつた。信徒の意見や質問に答えます。

### 典礼活動の大切さ

教会における典礼活動の位置づけを明確にしました。「典

### イエス・キリストご自身の祭司職に与る

教会の典礼活動は、実はイエ

ス・キリストご自身の祭司職の

ながら司教は次のような主旨のこと話をされた。

「仙台教区には少人数の教会

くべきことは何であるか、真剣に考えてほしい」。

が多い。これこそ教会が教会である理由を表しているのかもしない。小さな教会は仙台の誇りである」。「一人ひとりが福音のメッセージを世に発信していくことを考える必要がある。

教会がしてくれる、神父がして教えるという考え方を変えてい



### 典礼の靈性を深める

神学顧問 佐々木博

第二バチカン公会議が、最初に取り組んだのは典礼改革でした。その成果として四十年前に発布されたのが、『典礼憲章』です。これこそ、正に典礼刷新を目指した大切な憲章です。そこでもう一度、典礼活動についての基本的な理解を深めるためのヒントを、数回に分けて説明して行きたいと思います。

「典礼は教会の活動が目指す頂点であり、同時に教会のあらゆる力が流れ出る泉である」

『典礼憲章』10項)。ですから、

典礼活動においてこそ、教会の靈的成長過程が現れるのです。

教会が真に礼拝共同体として、より豊かに育つて行くにはどうすればよいのでしょうか。先ず、典礼の本質をしっかりと理解し、それを生きることが基本です。

職の実践に他なりません。「イエスは永遠に生きておられる

ので、変わることない祭司職を持つおられるのです。それで

また、この方は常に生きていて、人々のために執り成しておられるので、「自分を通して神に近づく人たちを、完全に救うことなどがおできになります」(ヘブライ24・25)。ですから、典礼は大祭司であるキリストご自身と、その体である教会の共同の活動であります。つまり、洗礼によってすべてのキリスト者は、キリストの祭司職に与るの

ひとが自分の信仰を再確認させられたひと時であつた。

和やかな雰囲気の中にも一人ひとりが自分の信仰を再確認さ

くことである。自分が伝えていくべきことは何であるか、真剣に考えてほしい」。

教会があつて信徒があるのではなく、信徒があつて教会があることを強調された。

ひとりが自分の信仰を再確認させられたひと時であつた。

今まであつた。

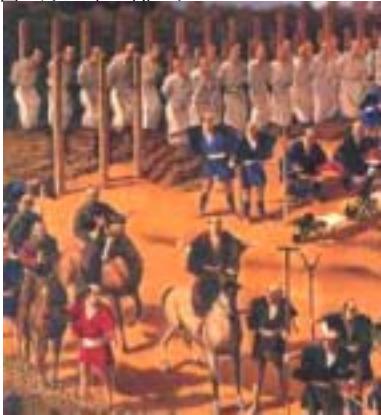
### <シリーズ> 188名日本殉教者列福の推進 ——ジョアン原主水——

脩 原主水

白井城主の子に生まれた。父は小田原の合戦に参加して、戦死。

幼い主水は徳川家康に拾われ、小姓として伏見に住んだ。そこで教会の門を潜り、受洗。家康

に従つて静岡に移った時は個人的な事情もあり、一時教会を離れた。1612年徳川の禁教令が発布され、まず旗本衆が追放された。その中にジョアンも含まれていた。1614年捕まり、



【江戸大殉教の図・馬上が原主水】

## 2004年度司祭異動

【】内は前任地

ヨンオク)【韓国・大田教区】

代理】

牧経験

司教総代理・事務局長

／平賀徹夫【司教代理】

仙台中央地区】

宮城県南地区／小野寺洋一

司教館(引退)／村首ステファノ【県南協力】

ノ【盛岡】

が、あり、  
ランドのルブリンという県庁  
のある町に生まれた。小・中・  
高等学校を卒業してからドミ  
ニコ会に入会 初誓願を19  
85年8月22日にたてた。P  
AT大学で修士前期の学位を  
受け、1991年5月18日に  
叙階。翌年に来日。日本では  
洪谷教会の助任司祭として働  
き、修道院院長の経験もある。

流暢な

日本語  
を話さ

教区会計／梅津明生

古川(主任代行)／平賀徹夫【仙  
台中央地区】離任／フエデリコ・エレラ(メ  
キシコへ帰国)【北上】親の影響のようですが、詳  
くは来日後自己紹介に期待し  
たいと思います。

【盛岡地区】

主任】

築館・米川・大籠・新生園／会  
津隆司【事務局長・教区会計】ニコ会に入会 初誓願を19  
85年8月22日にたてた。P  
AT大学で修士前期の学位を  
受け、1991年5月18日に  
叙階。翌年に来日。日本では  
洪谷教会の助任司祭として働  
き、修道院院長の経験もある。

五所川原／渡辺昭一

副主任】

同／(協力)／川井啓【古川】

アメリカの教会と学校での経  
験もつんでいる。劇や映画に  
興味があり、若者のために働  
きたいと言っている。

【宮城県南地区】

築館・米川・大籠・新生園／会  
津隆司【事務局長・教区会計】

(Fr. トマス)

盛岡地区(モデラトル)

石巻／佐々木博【司教館付】

(Fr. トマス)

／土井勝吾【築館・米川・大籠・  
新生園】郡山／リゲンザ・スタニスワ  
ル【宮古】

(Fr. トマス)

同／ヨゼフ・フレゲントブレ  
ル【宮古】

エバス【盛岡地区】

(Fr. トマス)

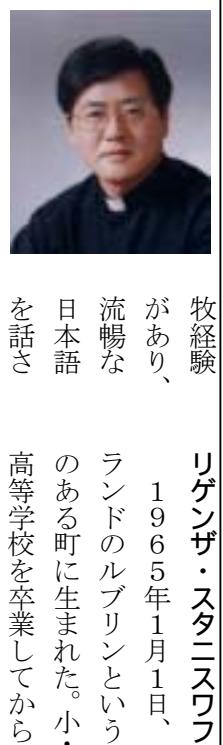
同／ヨゼフ・フレゲントブレ  
ル【宮古】築館・米川・大籠・新生園／会  
津隆司【事務局長・教区会計】

(Fr. トマス)



今年で 28 回目 ました。

数える弘前雪 当日は、あいにくの吹雪の  
燈籠祭りに、弘前 中、出番まで 30 分以上も凍  
力トリック教会 えていましたが、本番ではし  
がメーンの大 つかりとハンドベルと聖歌  
雪像のモチーフとなりま で開会式を盛り上げました。  
した。その開会式の中で、夜はライトアップされ、雪  
弘前カトリック幼稚園の 像の中にも灯りがともされ  
年長組の園児が、聖歌2曲 幻想的な雰囲気の中に、祭り  
(イエスさまがいちばん、が進んでいきました。  
グロリア) を披露しまし



リゲンザ・スター・スワフ 神父

1965年1月1日、ポー

ランドのルブリンという県庁

のある町に生まれた。小・中・

高等学校を卒業してからドミ

ニコ会に入会 初誓願を19

85年8月22日にたてた。P

AT大学で修士前期の学位を  
受け、1991年5月18日に  
叙階。翌年に来日。日本では  
洪谷教会の助任司祭として働  
き、修道院院長の経験もある。アメリカの教会と学校での経  
験もつんでいる。劇や映画に  
サッピョ(挟橋) 小教区の信  
徒に自分で造ったマリア像を  
ブレゼントするなど、司牧者  
としても魅力的な方です。

興味があり、若者のために働  
きたいと言っている。

(Fr. トマス)

戴いて、心豊かです。

岩手 盛岡上堂教会

翦也



がいて、毎週の御ミサには大勢の子ども達がいてそれは賑やか、樂しかったことも懐かしい思い出となりました。その後、成長した子ども達が転出したり、古くからの方々との信頼も次々と亡くなられたりで、今では、毎週御ミサにあずかるのは、五戸出身の方と結婚してメキシコから来たマリアさんと私の二人だけになりました。年に何回かは彼女の子ども達が来ますが、普段は二人だけです。ご降誕祭と、ご復活祭には皆で十和田教会に出かけます。



信徒は約百名。ミサは普段17名の参加。聖書勉強会は金曜日で、通常6～7名、多いときは10名近くにもなり、長続きしています。

ミサ・勉強会とも、終了後すぐに解散では空しいので、果物・漬物などで短時間のお茶会をし、和やかな気持ちになつて帰れるようにと心掛けています。

庭には大きな実のなる柿の木があり、毎年三百個ほど採れます。干し柿・さわし柿にし、人気をはくしています。また、蕎麦打ちの上手な信者の作った蕎麦

初代主任司祭は、マンブレ神父様でしたが、1970年帰国されたので、ツゲル神父様が就任され、更に2001年からは、梅津・フェリペ・ララ神父様が三人交替で司牧される形となり現在に至っています。

この教会は1963年に設立されました。当初は厨川教会という名称でしたが、1974年、盛岡上堂教会と改められました。

四  
火

角田教会は宮城県の県南にあり、幼稚園と併設して建っています。1965年(昭和40年)、今から39年前、児山六七男神父様の努力によって、何もないところから開設されたものです。

ナンの園（知的障害者施設）  
通信業務の援助、街頭募金への  
参加などを行っています。



あればフィリピンの貧しい学生が、卒業できるので支援して欲しいとの声に、早速援助をはじめました。

援助先は、神戸のザ・サークル・オブ・フレンズといい、西岡さんという方が始めたグループでした。

その後西岡さんと奥様は洗礼の恵みを受けられました。里子達は、里親のために祈っている

角田教会の主日のミサは、第一と第三の日曜日午後2時の月二回です。常に共に祈りを捧げるのは5～6人です。ミサの後聖書の分ち合いをし、お茶を飲みながら談笑して過ごします。小さいながらも信仰の灯火を消さないようにしようと皆で話しています。

昨年は微力ながら、仙南で開催された宮城県大会を無事に終わらせてることができたことは感謝です。

(合同会議は毎月第一土曜日午後2時から)

▼福島  
田島教会

ヒマワリ会 ウィリピン巡礼の旅

あればフィリピンの貧しい学生が、卒業できるので支援してほしいとの声に、早速援助をはじめました。

援助先は、神戸のザ・サークル・オブ・フレンズといい、西岡さんという方が始めたダーリングでした。

その後西岡さんと奥様は洗濯の恵みを受けられました。里子達は、里親のために祈つてい

この度、（1月6日～11日）冬の福島から、南国フィリピンへ5名で巡礼と視察の旅に行つてまいりました。セブ島ロンドンの村長さんは歓迎会で「お金ではなく、共に文化の交流を」と話してくださいました。

ロンドンの三つの学校を訪問し、日本から持つてきたお土産を差し上げました。その後、愛徳姉妹会の孤児院、赤十字社、カルメル会などを訪問しました。

ヒマワリ会員は里子たちの祈りに支えられて末永い交流を続けていきたいと思います。（星）

A group of school children in white shirts and red plaid skirts are dancing outdoors. They are moving their arms and legs in a synchronized manner. Some children are sitting on the ground in the background, watching the performance.

この会から、福島に支部をと  
いわれ、平成7年にヒマワリ会  
が誕生しました。

# 活動紹介

## ア・パウロ会

現在、同会仙台協議会のメンバーは会長以下7名です。毎月第三土曜日の夕方、5時30分よりカトリック元寺小路教会で例会を行っております。会の活動の主なものは、定期的な施設訪問です。具体的には八木山の身体障害者施設「福寿園」と「第二福寿園」の訪問です。会員がかわ

るがわる訪問しています。代筆をしたり、お話をしたり、お買物のお手伝いなどです。

全国的には「日本SS・VV・P」。世界的には「世界SS・VV・P」があり、7年に一回くらい全世界大会があります。筆者も30年ほど前のカナダ・モントリオールでの大会に出席したことあります。

今年6月、東京代々木のオリンピック村の跡で、全国大会があります。現在の会員は全員出

## 私の気分転換

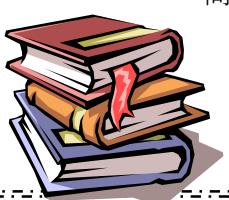
弘前カトリック幼稚園園長

二唐昇

昨年4月から「弘前カトリック幼稚園」に勤務し十ヶ月が過ぎようとしています。白雪に覆われた「岩木山」が、生まれ育った町に戻ったことを実感させてくれます。

初めて経験する幼稚園での生活は戸惑うことの連続で、まさに「借りてきた猫」状態であったのが最近ようやく「飼い猫」になつてきました。

約50分の電車通勤も生まれて初めての経験で、この時間の時間になっています。特に一日の仕事が終わっての帰りは、



席の意気込みで頑張つております。

入会ご希望の方は、TEL222-3060会長宅宛にお電話をお願いします。

新人の方の入会を切に望み発展を祈りつつ、お知らせといたします。

(会長 早坂養吉)

## 修道院紹介

仙台修道院

私たちにとって、2003年は本会の創立者ヤコブ・アルベリオーネ神父の列福という特別な恵みの年でした。創立者は、神からの特別の光に照らされて、新世紀の人々に、新しい時代に応じた新しいメディアを使って福音宣教をする本会を創立しました。

元寺小路教会の中にある「聖パウロ書院」写真で2人のシスターが、直接的なコミュニケーションによって、また本やCDなどのメディアを通じて、多くの方にキリストを伝えるために奉仕しています。修道院内では、「祈りの集い」をしたり、ホームページ「ラウダーテ」の執筆、会の歴史の資料収集などに携わっています。



た。その後の1957年、仙台修道院が堤通り東の借家で設立。翌年、元寺小路教会の敷地に移転し、1991年に宮城野区に移転し、現在に至っています。

初めは養成院を兼ねた修道院でしたので、若いシスターたちが団体宣教（教会、学校、幼稚園、会社など）、個別宣教（家庭訪問）、展示会などや書院で宣教活動をしていましたが、養成院が東京に移り、現在、7人のシスターで、宣教活動を続けています。

立者のようにキリストを生き、キリストを伝えるために、日々、世界の出来事の中に働く主のみ手に注意を払い、仙台教区のため、信者の方々のため、仙台教区内に住む多くの人々のために神の祝福を祈り、奉獻生活を生きています。

## 寿庵祭の案内

カトリック水沢教会

本年の『春の後藤寿庵大祈願祭』は「先人の信仰に学び、信仰を見つめる」ことを心のテーマとして、左記のとおりおこないます。先人の偉業を讃え、一人ひとりに語りかけてくださる神様を感じる「ひと時」となりますよう案内申し上げます。

（記）

日時 5月23日【日】

ミサ 午前10時より

場所 水沢市 福原

寿庵廟前

講話 溝部脩司教

テーマ「ペトロ・カスイ岐部と寛永年間の水沢地方」

女子修道会の歴史が始まりました。初めての経験で、この時間の間に養われて、聖パウロと、創